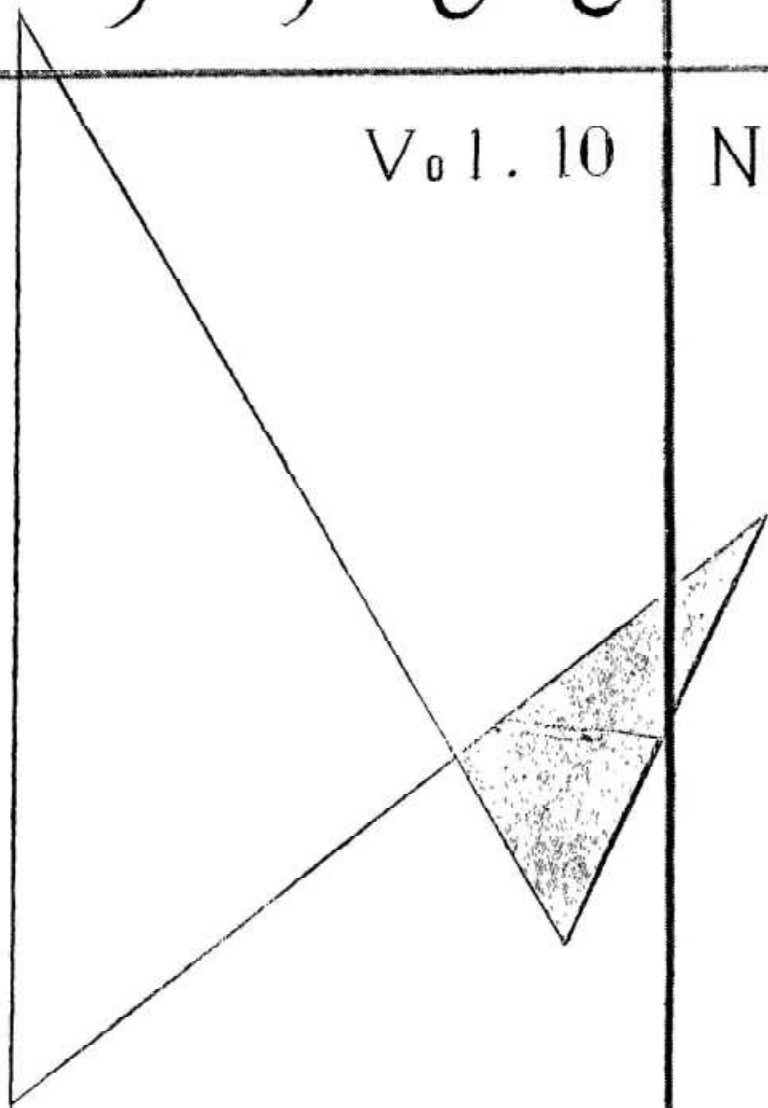


# すずむし

Vol. 10

No. 234



倉敷昆虫同好会  
1961 May

## 目 次

表紙デザイン .....	友 野 良 一 .....	表紙うら
泉下のゼフィラスの分布について .....	赤 枝 一 弘 .....	1
総社市産葉類第一回調査報告(一) .....	前 田 喜四雄 .....	4
岡山県下のオトシブミ科(1) .....	小 野 洋 .....	5
岡山県下のカメノコハムシ〔1〕 .....	小 野 洋 .....	6
初秋にイラガイツツバセイボウを記録 .....	近 藤 光 宏 .....	6
ウスイロコノマ採集さる .....	青 野 孝 昭 .....	7
倉敷でクロコノマ採集される .....	近 藤 光 宏 .....	7
おとしぶみ .....		8
倉敷の連島山でアサギマダラを目撃 .....	近 藤 光 宏 .....	8
アサギマダラを目撃について .....	堀 浩 .....	8
ゴインジミを目撃について .....	堀 浩 .....	8
クロヒカゲモドキの記録 .....	堀 浩 .....	8
大佐町大井野、雌山でキマダラモドキを採集 .....	赤 枝 一 弘 .....	8
大佐町布瀬でオオツノトンボを採集 .....	赤 枝 一 弘 .....	8
大佐町大井野でコノシメトンボを採集 .....	赤 枝 一 弘 .....	8
アヤナミカメムシ倉敷に産す .....	近 藤 光 宏 .....	8
早春の阿哲映から .....	小 野 洋 .....	9
編集後記 .....		9

## 県下のゼフィルス

### 分布について

赤 枝 一 弘

現在岡山県下に分布するゼフィルスは一応18種と考えられるが、これからそれらの種の分布について他種と比較しながらのべてみたい。先に「岡山県南部の蝶」において県下の蝶の分布の特殊性について少し述べたように、県下の蝶は南部から北部へ行くに従つて種類が増え南限を持つ種は多いが逆に北限を持つ種は一応ないと言つてもよい。言いかえれば県南部で採集できる種は二、三の例外をのぞいて北部においてもすべて採れるわけである。即ち北部のいわゆる中国山地にしか分布をせぬ種がギフチョウ(図1)を始めとする14種でありそれよりやや南によつた分布をするものにウスバシロチョウ(図2)、ウスイロヒヨウモンモドキ(図3)等があり南にいくに従つて高梁あたりまででサカサチョウ等が消えさらに豪渓—金山の線でヒメキマダラセセリ、アオバセセリ、スジボソヤマキチョウ、トラフシジミ等が姿を消す。この最後の分布線豪渓—金山を南限、あるいはそれに近い南限を持つ種はかなり多い。さらにそれに似た南限を持つ種にミヤマアカネがある。この種については安江氏がくわしく述べておられるのでここではその分布図だけを引用さしてもらふ。(図5)何故このような分布をするかについては明らかでないが安江氏がいわれるようにこの分布線が年平均気温15°Cの等温線とほぼ一致するのはむしろ偶然と考えた方がいいと思う。何故なら前記の種の内アオバセセリ等は明らかに暖地系の種であるからである。ところでこれ等の予備知識を持つてゼフィルス18種の分布をながめてみるとゼフィルスのみを持つ特殊性があることが分つた。というのは蝶全般について見ると、北部の中国山地と南部の平野を除いた中央部に南限を持つ種が二十数種の多くを数えるにもかかわらずゼフィルス類だけに例をとつてみると、北部山地のみにしか分布をせぬ種8種を除くと一種の例外をのぞいて他は全県下に広く分布するという事である。これを図で現わしてみると北部山地のみにしか分布せぬ種はオナガシジミ、ウラミスシジミ、アイノミドリシジミ(本種については白水氏の日本産蝶類分布表にもなく、本会員で分布を確認した者もないが、佐藤清明氏他蒜山での記録があるので加えておく)、フジミドリシジミ、エゾミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ(図8)、ジョウザンミドリシジミ、メスアカミドリシジミ(本種については北部山地の切れた地点となる勝山町月田<sup>\*</sup>の記録があるが一応北部山地に加えておく。以上の8種をのぞく種は一応県下各地でとれるわけであるがその中にまた2つのタイプが見られる。即ち県下いたる所で採れるもの、極めて隔離的分布を示すものである。前者のタイプをとるものには、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、アカシジミの四種があり、後者のタイプを示すものがミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ(図6)、ウラジロミドリシジミ(図6)、ウラゴマダラシジミ、ウラケンシジミ(図7)の五種がある。最後に一種残つた例外はヒロオビミドリシジミであつて、本種は北部山地しか記録がなかつたが一昨年堀氏によつて高梁市玉川で記録された。他の種から考えて県中部で記録された本種は当然もつと分布が広がり全県下に分布するが隔離的という型を示すのではないかと期待しているわけであるが、今後の調査が待たれる。さてなぜこのような分布を示すかについては色々な原因が考えられるが、これ等の種の食草を調べてみると、他の種ではほとんど食草に制限されると考えられる種はないが、ゼフィルスではかなり関係がありそうである。

<sup>\*</sup> 片山 1945. 7. 5 岡山と昆虫

2 (11)

北部山地しか分布せぬ種 (食草の資料は主として白水氏の日本の蝶による)

種名	食草
フジミドリシジミ	ブナ
エゾミドリシジミ	ミズナラ
ハヤシミドリシジミ	カシワ
ジョウザンミドリシジミ	ミズナラ
アキノミドリシジミ	ミズナラ
オナガシジミ	オニグルミ等のクルミ科
ウラミスジシジミ	カシワ
メスアカミドリシジミ	エゾヤマザクラ等

全県下に分布するもの

普遍的なもの

ミズイロオナガシジミ	クヌギ, コナラ他
オオミドリシジミ	ブナ科各種
ウラナミアカシジミ	クヌギ, コナラ他
アカシジミ	クヌギ, コナラ他

隔離のもの

ミドリシジミ	カバノキ科各種
ウスイロオナガシジミ	ナラガシワ
ウラジロミドリシジミ	ナラガシワ
ウラゴマダラシジミ	イボタ
ウラキンシジミ	イボタ

特殊なもの

ヒロオビミドリシジミ	ナラガシワ
------------	-------

と以上のようになる。これによるとクヌギ他ブナ科全般を食する種が普遍的分布をし、ハンノキとかナラガシワ等の比較的隔離的分布をする植物を食する種が隔離的分布をしている。なお、同じ食草を持つウスイロ、ウラジロ、とウラゴマダラ、ウラキン、が同一地に混棲するのは当然である。

県北にしか分布せぬ種の食草を見るとサクラを食草とするメスアカミドリ、クルミのオナガシジミを除いてはブナ、カシワ、ミズナラの3種を食草としている。この3種の植物はブナ、カシワは北部山地にしか分布していないし、ミズナラは南部でも見られないことはないが、山地性の植物にはちがいない。以上の事などから県下でのゼフィルスの分布は他の種と違つてかなり食草と関係があると考えられる。

昆虫 植物採集用具 理化学器械

岡山市西中山下(柳川交叉点東)

永瀬教育堂

電話 ② 4725

新刊書籍・雑誌・文具

愛文社書店

倉敷市阿知町 TEL 126

図2. ウスバシロキヨウの分布

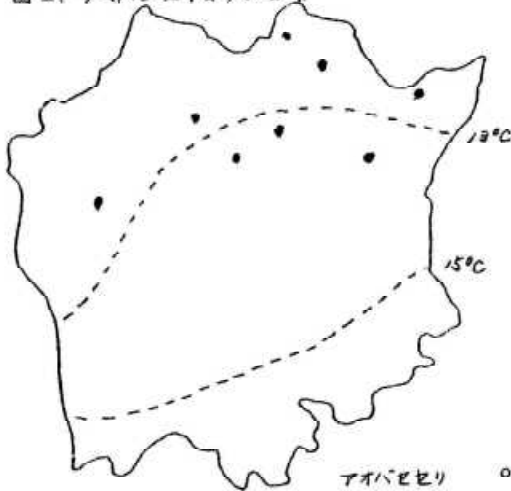
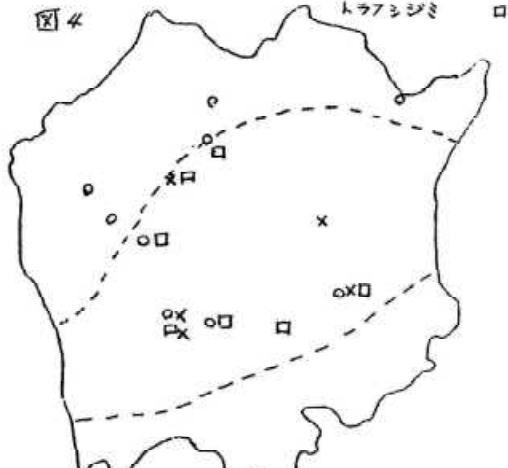


図1. ギフチヨウの分布

北部分布型



図4



○ アオバヒセリ  
 × スシホソヤマキキヨウ  
 □ トラフシジミ

北部分布型

図3. ウスイロヒヨウモンモドキ

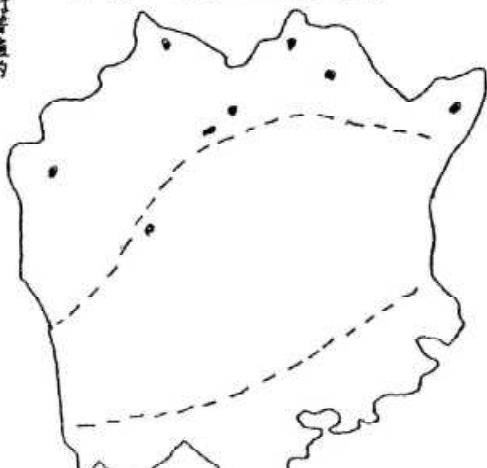


図6. ウスイロ ○ ウラシロ × の分布

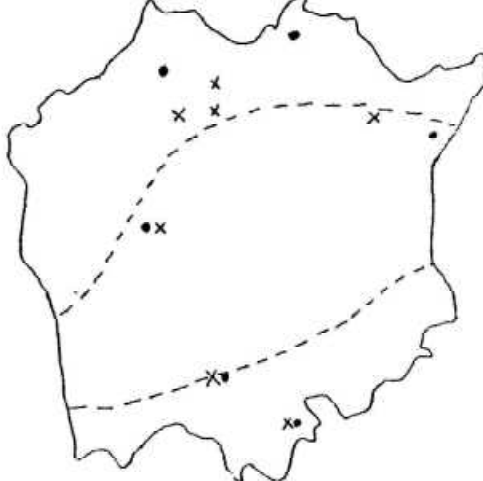
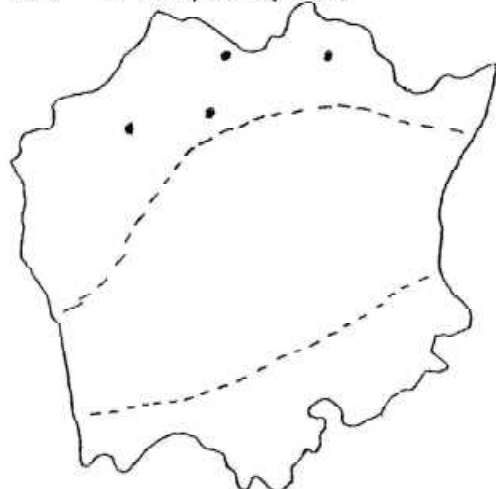


図5. ミヤマアカネの分布 (安江 澤野内海)

研究地は別刷



図8 ハヤシミドリシジミの分布



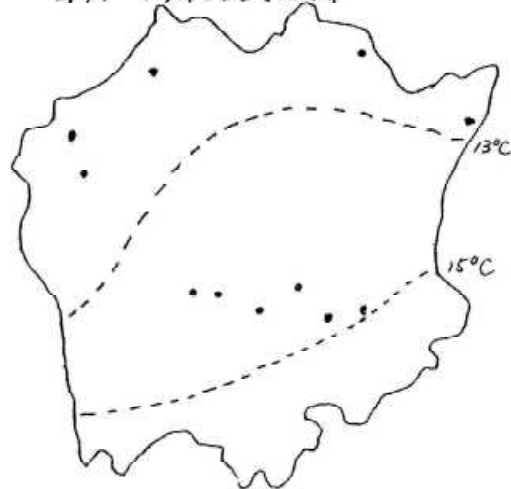
## ○ウスイロオナガシジミの分布地

上才原村恩原	井上	1949
川上村	徳山	1955
吉備郡竜王山	泉生物目録	1930
新見市草間	青野	1957
英田郡江見	片山	1946
倉敷市黒田	小野	1949
金甲山	安東	1956

## ○ウラジロミドリシジミの分布地

勝山町	竹内	1949
神庭	西村	1951
大佐町	青野	1958
英田郡美作町林野	大崎	
新見市草間	青野	1957
金甲山	鈴木	1908
倉敷市黒田	広瀬	1950

図7. ウラキンシジミの分布



## ○ウラキンシジミの分布地

那伎山	西村	1951
足立～上石見	〃	〃
英田郡東栗倉	春名	1940
真庭郡八束村	徳山	1950
阿哲郡新郷町	道信	1950
岡山市金山	奥谷	1940
足守町亀泉寺	水野	1953
吉備郡稲荷山	水野	
兼 儀	青野	未 発
赤磐郡吉井山	秋山	1956
三石町	富松	1959 (私信)

## ○ハヤシミドリシジミ

阿哲郡大佐町	青野	1958
苫田郡上才原	小林, 鐘尾	1954
真庭郡神庭	片山	1957
八束村	倉吉高校生物部	

## 総社市産蝶類第一回調査報告(一)

前 田 喜 四 雄

総社市産蝶類目録を作ろうと秋山君と決めたが何分未知なところばかりであるのでその第一回の調査として総社市北東部の岩屋方面(総社市最高山の登山山(462m)がある)へ去る9月17日(土)授業がすんですぐ自転車を飛ばして彼といつしよにいつた。なにしろ9月の中旬だつたので蝶類は少なかつた。しかしウラオミだけは多かつた。別なことではあるがモウセンゴケはたくさん自生していたので持つて帰つて栽培している採集品(秋山・前田)

モンシロ, キチヨウ, コミスジ, ヒメジャノメ, ヒカゲチヨウ, ヒメウラナミジャノメ, キマダラヒカゲ(目撃), ウラナミシジミ, ツバメシジミ, ルリシジミ, ベニシジミ, ムラサキシジミ, オオチャバネセセリ, コチャバネセセリ, ヒヨウモンの類は目撃したが残念なりけり。なお総社市での採集記録お持ちのかたは御一報ください。



6 (15)

12. *Byctiscus regalis* Roelofs ドロハマキチヨツキリ  
高梁 (1 ex, II-28, 1959)
13. *Aderorhinus crioceroides* Roelofs チャイロチヨツキリ  
矢の峯 (6 exx, VI-8, 1956)

岡山県のカメノコハムシ (1) 小野 洋

現在迄に県下で記録されたカメノコハムシをまとめ簡単に報告する。

Cassidinae カメノコハムシ亜科

1. *Cassida nebulosa* Linne カメノコハムシ  
岡山 (2 exx, VI-10, 1953)
2. *Cassida piperata* Hope ヒメカメノコハムシ  
倉敷 (2 exx, VI-21, 1952)
3. *Cassida japana* Baly イノコズチカメノコハムシ  
倉敷 (1 ex, VI-20, 1948)
4. *Cassida sigillata* Gorham イカリヒメジンガサハムシ  
阿哲 (1 ex, II-16, 1961)
5. *Thlaspida biramosa japonica* Spaeth イチモンジカメノコハムシ  
阿哲 (1 ex, V-3, 1956)  
神代 (1 ex, V-24, 1959)  
高梁 (1 ex, VI-28, 1959)
6. *Cassida*(*Taiwania*) *versicolor*(Boheman) セモンジンガサハムシ  
高梁 (1 ex, V-15, 1949)  
矢の峯 (1 ex, VI-8, 1956)  
高梁 (1 ex, VI-28, 1959)  
*forma crucifera* Kraatz  
高梁 (1 ex, VI-28, 1959)

### 初秋にイラガイツツバセイボウを記録

近藤光宏

1960年9月25日、日曜日の午後、勤務先である倉敷市連島町宮之浦付近の子供達を道連れに、当地の西側を流れている高梁川東堤を北にとる。初秋とはいえ大変な暑さである。つい先方に見えていゝ鉄橋もなかなか近づくかない。それでも子供達は元気よくジャコウアゲハ、キアゲハ等を追っている。最近あまりフィールドしないせいか、水に疲れを流したり昼寝をしたり、その進捗全くカメの如くである。でもようやく目的の場所へやつて来た。ここは片島町に属すると思われる川原で山陽本線の鉄橋のかみに位置し、ここにはいつごろから植樹されたものか、ニセアカシアが背丈をはるかに密集している。子供達は相変わらず、キチヨウ、コムシジを採集、筆者は今日もハグロハバチを採集、これで当地におけるハグロハバチの記録は3頭を数える。その時超スピードでセイボウ科独特の光沢をはなちながら飛来した本種を捕獲することができた。保育社「原色日本昆虫図鑑」には本種の成虫発生は、初夏の頃とあり、また本年3月に採集して来たイラガのまゆ25個から発生した時期6月30～7月10日、更にVol. 1 No. 8の記録からみて、かなり遅いものと思われ、発生以来約3ヶ月後の消息として一応報告しておく。



## ウスイロコノマ倉敷で採集さる

青野孝昭

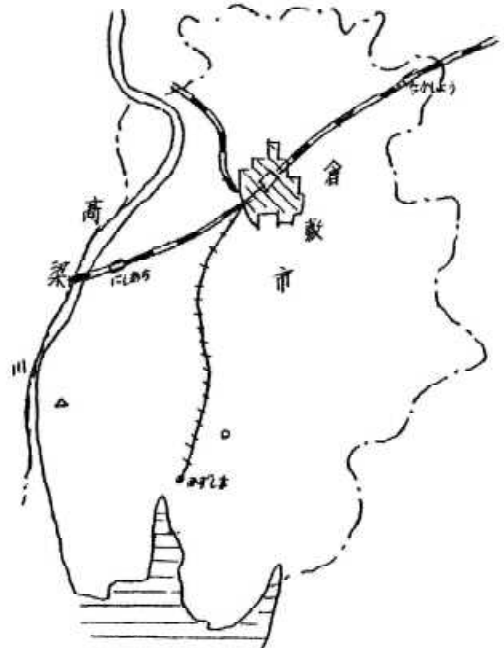
ウスイロコノマチヨウ *Melanitis leda* LINNE が倉敷で採集された。

1960年8月4日、倉敷市福田町東塚の農家の直ぐそばで、倉敷市立福田中学校2年生(当時)の田村守君によつて、夏型1頭がとらえられた。

田村君によると、午後夕方に近い頃、自宅裏へ出てみたところ、ヒカチヨウ様の蝶が自宅菜園のサトウキビの間にいたのでネットにしたところ、本種であつたとのことである。

当 福田地区はかつての東高梁川の土砂が堆積、その後流路変更によつてできた新開地で歴史も比較的新しいが、本種の食草たるサトウキビが点々と広く栽培されていることは注目される。

現在のところ、岡山県下では未記録と思われ、隣接の兵庫、大阪方面でも稀に記録されている程度なので、田村君の記録後も注意していたが、1960年中には、再発見することはできなかつた。



□ ウスイロコノマチヨウ採集地点  
△ クロコノマ採集地点

## 倉敷でクロコノマ採集される

水島 雅

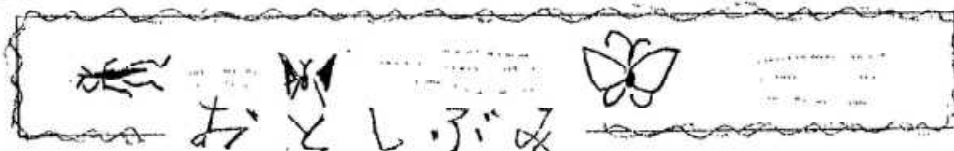
近藤 光宏

本種 *Melanitis phedima oitensis*

MATSUMURA クロコノマチヨウは1960. 8. 30 倉敷市連島町宮之浦地内の木陰で、当時連島中学2年生の渡辺忠孝君によつて記録された。写真のように個体はやゝ破損している。地上1メートル位のドングリに静止していたが、飛び立ってネットした。付近には食草である ジュズダマ、ヌスキ等も見られる。県下の記録をみると「(岡山と昆虫) (1959, 10)に「1955. 8. 10. 岸山市滝尾堀坂(中学生徒の採集)此蝶は極めて稀れで15. 6年前英田郡作東町土居の山中に採集せられたことがある。」が本会としては初記録であり、採

集者に変わつて報告しておく。

なお筆者が直接採集していないので詳細に記すことができない故、参考までに本種を保育社、原色日本蝶類図鑑にみると「陰性で日陰を好み、樹林の暗い木の間で棲息する習性があり、これは採集者の言に一致する。「夏型は年2回に発生し、ジャノメチヨウ科には珍しく成虫越冬する」本種標本は、筆者自宅に保存している。



### 倉敷の連島山でアサギマダラ を目撃

去る1960 10. 14 午後3時頃、倉敷市連島町、宮之浦、連島山北西部の極めて平凡な谷川をゆるやかに飛遊して行く本種を目撃した。その日は天気もよく北風も弱く、数人の子供と草花の採集に出かけたものの、網の持合せがなく、縦横にはりめぐらされたくも果を顔面にあびながら手を出せば、とどくところで見送つてしまった。残念である。一時は網をとりに引き寄せそうとも思つたが、いつのまにか貴重な時間をいつしてしまった。参考までに倉敷市での最も新しい本種の記録を上げると本会員、友野良一氏 1956, 9, 28 福山々頂10の記録がある。

(近藤光宏)

### アサギマダラを目撃について

1960年5月8日、高梁市玉川町下切で、クサイチゴと思われる白い花に吸蜜しながらぶらさがつている本種1頭を目撃した。相手との距離は3mと離れていなかった。筆者は突然の出合いにあわててつき竿をついできてどちらから網をかぶせようか、一度失敗したらそれまでだと思つていろうちに相手はゆるやかに傍の杉林の中へ逃げてしまった。すぐ後を追つたものの、なにしろ急な山なので続けて追うことができず、ついに逃がしてしまつた。

さて、アサギマダラの県南部での記録は赤枝氏の「岡山県南部の蝶1960」に数箇所あげられているが、いずれも9~10月においてなされたものである。筆者が目撃した時期がこれ等よりかなり早いもので一応報告します。

(堀 浩)

### ゴイシジミを目撃について

1960年8月6日、高梁市玉川町玉から同町下切に至る山道で約100mの間に12~13頭の新鮮なゴイシジミを目撃した。

(堀 浩)

### クロヒカゲモドキの記録

1959年6月28日高梁市玉川町玉から同町下切に至る山道を飛行中の本種1頭を採集した。

1959年8月9日、高梁市玉川町玉勤場で

本種1頭を採集した。(堀 浩)

### 大佐町大井野、雌山でキマダ ラモドキを採集

1960. 8. 13 雌山頂上でかなりのキマダラモドキが採集された。当地での本種はすでに一昨年青野氏によつて報告されたが、県下でもかなり稀種に属する本種が当地にかなり普通に採れるのは興味深い。筆者の見た範囲では頂上附近に限つて分布するようで、すでに相当破損していた。なお当日ネキトンボらしい種を目撃した。

(赤枝一弘)

### 大佐町布瀬でオオツノトンボ を採集

1960. 7. 17 燈火へ飛来したオオツノトンボ *Protidricerus japonicus* *Maclachlan* を採集した。本種はかなり稀な種である。

(赤枝一弘)

### 大佐町大井野でコノシメトン ボを採集

1960. 8. 12 大井野から君山へのコースでコノシメトンボ *Sympetrum inbuacatum* *Selys* を採集した。比較的少い種であるので報告しておく。

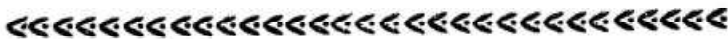
(赤枝一弘)

### アヤナミカメムシ倉敷に産す

本種 *Agonoscelis nubila* *Fabricius* は、これまで Vol. 16 No. 3 赤枝一弘氏による向州での記録(1954年9月16日)があるが、倉敷産のものは報告されていない。

去る1960年9月17日いつも行く高梁川川原(倉敷市片島町)で、草茎の間を活発に移動していく本種2子を何なくとらえることができた。保育社の原色日本昆虫図鑑には「日本では稀だが時に非常に多数のものが集まる」とあるが、当時も採集する気があれば相当とれていたらと思う。

(近藤光宏)



# 早春の阿哲峡から



期待していた空模様は、朝から急テンポで悪化。井倉へ降りた時には、もう厚い雲におまわれ  
たりす暗い天井だった。気温は低下しておまけに強風が背中をおしつける。

4月16日、植物はやわらかい新芽を一せいにふきだすようにのびし、山はうつすらと緑色味  
をおびてきている。ところどころにヤマブキの黄色があざやかに目にうつる。

ところで、昆虫の万は一向に姿を現わさない。モンシロチョウ御一匹もおいでにならない。時  
おりテングチョウがその赤茶けた姿で勢いよく飛びまわる。川岸をふかくえぐられ侵食された石  
灰岩の景観、傾斜の急な水の流れの音、視聴覚で楽しみながらたど歩くこと、歩くこと……。  
手にもつたネットは一向に活躍しない。その中に、自動車による砂じん、ほこりまみれ。見あ  
げると今にもドストと落ちて来そうな感じのする大岩塊の下をすたすたと通りぬけるともう、絹  
がけの滝である。ツバキの花がポロリと落ちているところで、ルリシジミにお目にかかった。少  
し上にのぼるとますます風が強く、わざわざ一枚ぬいで来た身体はぶるぶるとふるえそうであ  
る。ツマグロオオヨコバイがちらちらと前をかすめて飛んで行つた。さすがに風のあたらないバ  
ラの葉かけにはハバチなどが活躍していた。

よりもよつて風当りの強い岩の上で早い昼食をすませた。そこからあたりを少しめんみつに探す  
ことにした。傾斜した地面の石をどぞどぞかしてみてもヤスデヤムカデがうずくまつているだ  
けで、うがしばえがしない。やつとクチキムシがいた。しかしおしまい頃に近藤氏によつてズマ  
ルトラカミキリが採集できたのはよかつた。ほかには葉裏にひっそりと動かないでいたクロウリ  
ハムシ、トビサルハムシ、イカリヒメジンガサハムシ、ルイスアンナガオトシブミなどが記録で  
きた程度。もつとおだやかで気温が高ければ……。とくやしがりながら、万谷方面に急ぎかけた  
頃、めずらしく山かげから少しばかり太陽が顔を出してあたためてくれた。又の日が素晴らしい採  
集日和であることを約束してくれるように。

(小野 洋)

## ◇ 編集後記 ◇

どともかも春だらけの今日この頃、やつと  
昨年で予定の“すずむし” Vol.110.No.2,3  
4がこのこと現れるといつた真に何ともお  
詫びのしようのないようなことで本当に申訳  
ありません。盛大に祝賀すべき10周年が反  
対にみじめな状態に陥つたようで、編集員  
一同深く恐縮いたしております。しかも“す  
ずむし”有史以来初めて合併号を出すとい  
う不手際。我々も残念に思っております。も  
つとも年会費200円30名足らずの会員で、台  
所の万は終始四苦八苦やつとひねり出した2  
号ではあるのですが……。今の会計ではこ  
の程度の雑誌を出すですれば年2回がやつと  
というところでどうやら会費値上げの時期が  
来ているようです。それはともかく本年が本  
会にとつて輝かしい発展の年となりますよう  
皆様方の力一ぱいの御活躍を期待いたして  
おります。“すずむし”もVol.11からはより  
皆んなが親しめるデラックス会誌として進展  
するようにお互いに努力しましょう。(0)

テ レ ビ コ ー ダ ー 機	理 生物、地学標本模型
	化 昆虫採集用具
	学 テレビ・ラジオ・真空管
	器 島津製作所岡山県代理店
+ 力 工 商 会	
倉敷市栄町(赤木病院西) 電話 913番	

理 化学器機・光学器機・度量衡
計 計 器 ・ 採 集 用 具
平 田 光 学 器 機 店
岡 山 市 中 之 町 27 電 話 5475

すずむし 第10卷第2,3,4号 昭和36年4月29日印刷  
昭和36年4月30日発行

編 集 兼  
発 行 者 岡山大学大原農業生物研究所  
害虫部第2研究室内  
倉敷昆虫同好会

印 刷 所 岡山市国富本町248  
岡崎印刷 TEL ②7072番